

# 弥富高架橋見学記

編集委員会

平成10年6月11日(木)に本誌編集委員会による第二名神高速道路の弥富高架橋現場見学会を開催しましたので報告します。

6月11日は梅雨の時期でありながら天候に恵まれ、快晴でした。各委員は13:00にJR名古屋駅に集合し、貸切りバスで弥富高架橋の現場に向かいました。

弥富高架橋は伊勢湾岸道路(名港トリトン)から西方約4kmの愛知県海部郡弥富町の第二名神高速道路鍋田IC(仮称)付近に位置し、名古屋駅から現場までは40分程度で到着しました。

弥富町といえば金魚の養殖が全国的に有名であり、田園風景の中の所々に養殖場があります。また、この金魚はわれわれよりも早くスペースシャトルに乗って宇宙旅行を体験しています。

現場付近には弥富野鳥園、弥富トレーニングセンター(競走馬)があるなど、自然環境豊かな場所です。

現場事務所(オリエンタル・ピー・エス・安部共同企業体)に到着して最初に注目させられるのは、事務所に隣接する8万 $\text{m}^2$ を超える広大なセグメント製作ヤードです。セグメント製作場とストックヤードに整然と置かれたセグメントの数には驚かされました。

JV事務所では日本道路公団名古屋建設局名古屋工事事務所の森山陽一工事長から第二東名・名神高速道路の概要と弥富高架橋について説明をしていただきました。

説明によれば第二東名・名神高速道路の建設には、工費縮減・省力化および工期短縮を目的に新技術・新工法を積極的に採用しているとのこと。弥富高架橋においてもショートライン・マッチキャスト方式でセグメントを製作し、1径間分のセグメントを並べて一度にケーブルを緊張し完成させるスパンバイスパン工法を採用しています。さらに新工法・新技術の取組みとして、無筋目地部の試験、デビエータの破壊耐力試験、メッシュ鉄筋疲労試験、波形鋼板ウェブ構造に対する試験および外ケーブル摩擦係数測定・施工性の確認試験など数々のテーマに対し、積極的に取り組んでいます。

事務所内で説明を受けた後、セグメント製作場を見学しました。弥富高架橋の橋長は約1.5kmあり、本線(上下線)・ランプ全体のセグメント数は1299個になります。4基のセグメント製作台を使って、1日1個/台のスペースでセグメントを製作していますが、当日までに約800個弱のセグメントの製作を完了していました。

また、大変ラッキーなことに前日から架設作業が始まっており、その作業を見学することができました。

弥富高架橋の架設方法には、①架設術によるスパンバイスパン架設(ハンガータイプ)、②固定支保工によるスパン



写真-1 スtockヤードに置かれたセグメントの前で

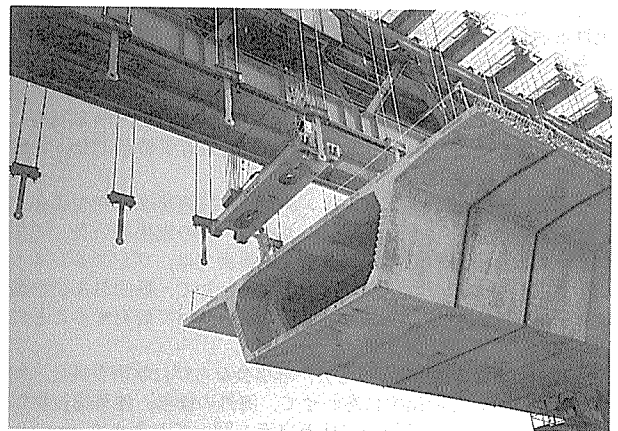


写真-2 セグメント架設状況

バイスパン架設および③エレクションノーズによるキャンチレバー架設の3方法がありますが、今回見学したのは架設術によるスパンバイスパン架設です。この工法によれば1径間を約7日~10日で施工できるとのことです。

すでに8個のセグメントが吊り下げられた状態で並べられていましたが、吊り下げられたセグメントの下は立入り禁止ではなく、そのほぼ真下をわれわれのバスが通るときは不安や驚きで口をあけて上を見ていました。

今後、工事は架設を中心にまだまだ続きますが、平成11年末には田園風景の中に軽快な弥富高架橋が現れることとなります。

最後に貴重な時間を割き、熱心に説明をしていただきました森山陽一工事長、案内と質問に応じていただきましたオリエンタル・ピー・エス・安部共同企業体の松田耕一所長をはじめ多数の技術者の方々に心から感謝申し上げます。

【文責：松山高広(榊安部工業所 営業本部 東京技術部)】